

2018年度ベトナム共同調査について

茂田良光（千葉県）・杉野目 斉（宮城県）・山田真司（神奈川県）
倉橋義弘（愛知県）・庄山 守（沖縄県）

2018年度ベトナム共同調査は、2018年4月10日から14日にベトナム南部 Ca Mau Province, Ca Mau の Ca Mau Cultural Park (09° 11' N, 105° 02' E) で実施された。調査参加者は、国立ハノイ大学の Dr. Hoang Van Thang 教授, Mr. Pham Viet Hung, Mr. Hoany Uau Zhany, (CRES: Center for National Resources Management and Environmental Studies), および ハノイから Mr. Le Manh Hung, Mr. Dang Anh Tuanの諸氏, 日本からは、茂田良光（千葉県）、小倉 豪（韓国）、杉野目 斉（宮城県）、山田真司（神奈川県）、倉橋義弘（愛知県）、庄山 守（沖縄県）の6名である。調査には、Ca Mau Cultural Park に所属する2名も参加し協力していただき、捕獲用の霞網の設置に必要な竹竿も用意しておいてくれた。日本からの出発は、4月8日、帰国は4月16日である。

今回の調査地、Ca Mau Cultural Park では2011年2月17日から2月23日に今回と同様の調査を実施している。この時の調査は、国際獣疫事務局(OIE: 本部 フランス)によるもので農林水産省の予算で行われた。標識協会会員は、茂田と小西広視氏、笹森 聡氏、渡辺有希子氏の4名が参加し、ベトナムからは今回の調査参加者、Thang 教授, Hung 氏, Ca Mau Cultural Park から3名が参加した。調査は、サギ類の混合集団コロニーで繁殖中のサギ類とそのほかの鳥を主な対象として行った。サギ類には右脛に金属足環、左脛にカラーリング(緑/黄)を装着した。捕獲には手捕と霞網を用いた。繁殖コロニーには夏羽と冬羽の両方の個体が観察され、サギ類の繁殖コロニー内に夏羽と冬羽の個体が見られたのは、世界初だとされ注目された。冬羽の個体は繁殖していない越冬個体である。放鳥結果は、合計20種111羽、日本と共通種は、サギ類はコサギ46、ゴイサギ20、アカガシラサギ1の3種67羽、他にオニカッコウ4、ヨタカ1、ヤマショウビン3、アカモズ1、オジロビタキ3、コサメビタキ2、メボソムシクイ1の7種15羽であった。観察鳥種は50種で、放鳥種を除く日本と共通種にはサギ類ヨシゴイ、アマサギ、アオサギ、ムラサキサギ、ダイサギ、チュウサギの6種、他にはチョウゲンボウ、カタグロトビ、タシギ、ユリカモメ、ドバト、ヒマラヤアナツバメ、アマツバメ、アオショウビン、アサクラサンショウクイ、サンショウクイ、オウチュウ、ハイイロオウチュウ、イエスズメ、カバイロハッカ、ギンムクドリ、ノビタキ、ツバメ、キマユムシクイの18種であった。

今年度の調査では、放鳥結果は、合計8種45羽、日本と共通種は、サギ類はコサギ25、ゴイサギ4の2種29羽、他にハイイロオウチュウ1、アカモズ1、ツツドリ1、カワセミ1の4種4羽であった。観察鳥種は39種、放鳥種を除く日本と共通種にはサギ類アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、アカガシラサギ、アマサギの5種、他にはカタグロトビ、ドバト、オニカッコウ、セグロカッコウ、ヒマラヤアナツバメ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、ブッポウソウ、ナンヨウショウビン、アサクラサンショウクイ、コサメビタキ、オウチュウ、イエスズメ、カバイロハッカ、ノビタキ、ツバメの16種あった。

本年4月のベトナム共同調査は、時期が遅すぎてサギ類の繁殖期は最盛期を過ぎていることが判明した。おそらく、11月にはサギ類の繁殖期は始まっていることが予想される。来年度は、11月か12月に今回と同じ調査地で調査を実施するのが望ましいと考えられる。日本とベトナム間の回収記録は、1989年から2014年までにゴイサギ、アオサギ、チュウサギ、各1例、ツバメ4例、ショウドウツバメ2例、クロツグミ2例の合計6種11例が知られている(データ利用許可番号 山階保全第30-108号)。この回収数は両国間の共通種数からすると多くないが、今後、調査の時期を変えることで成果が期待できるであろう。